

特集 「2015年度人工知能学会全国大会(第29回)」

オーガナイズドセッション (OS)

加納 政芳 (中京大学), 稲葉 通将 (広島市立大学), 林 佑樹 (大阪府立大学), 山西 良典 (立命館大学)

第29回人工知能学会全国大会では、25件のオーガナイズドセッション(以下、OS)が企画された。表1にOSの一覧と発表件数を示す。ここ10年間の企画数の推移を見ると、第19回が7件、第20回が11件、第21回が8件、第22回が13件、第23回が12件、第24回が14件、第25回が22件、第26回が21件、第27回が24件、そして第28回が28件と増加傾向にあり、今大会も昨年とほぼ同規模のOSが企画された。OSでの発表件数は245件、一般発表の発表件数(345件)の約70%となっており、OSが全国大会において重要な役割を担っていることがわかる。ただし、増加傾向にあるOSの企画を可能な限り採択するために、最大2枠での実施をオーガナイザに依頼した。これによって、発表時間が短くなった発表、一般セッションに発表を移していただいた発表があり、関係の方々には十二分な発表の機会を設けられなかった可能性がある。この点については今後の課題の一つといえる。

さて、OSには、(1)オーガナイザがプログラムを編成できる、(2)パネルディスカッションなどの企画が行える、(3)招待講演が行える、といった特徴がある。今大会においても、これらの利点を活用した魅力的なOSが企画されており、新たな知的発見があったものと推察される。また、今大会から趣旨説明と総括するための時間をセッション内で必ず確保していただいた。これにより、OSの企画理由や位置付けなどを発表者ならびに聴講者と共有でき、より一体感のあるOSが企画できたものとする。

以上のような趣旨で企画されたOSの報告記事がこのページ以降に掲載されている。ぜひご一読いただき、第30回全国大会において、OSの企画ならびに参加を検討いただければ幸いである。

最後に、今大会のOS企画ならびに編成にご協力いただいたOSオーガナイザの方々に感謝申し上げ、OS報告記事の前書きとしたい。

表1 OSの一覧と発表件数

番号	セッション名	件数
OS-1	意味と理解のコンピューティング	12
OS-2	マシブデータフロー～人と環境と人工システムが作り出す複雑さ～	6
OS-3	SAT 技術の理論, 実装, 応用	9
OS-4	ネットワークが創発する知能	7
OS-5	ことば-コンピューター-コミュニケーション	13
OS-6	Deep Learning	10
OS-7	知的対話システム	11
OS-8	Linked Data とオープンデータ活用	10
OS-9	交通・移動・物流と AI	14
OS-10	知的インタラクティブシステム	8
OS-11	学習科学と学習工学のフロンティア	11
OS-12	記号創発ロボティクス	9
OS-13	金融情報学-ファイナンスにおける人工知能応用-	9
OS-14	HAI で創り上げる社交性と雰囲気	10
OS-15	身体知の表現と獲得	10
OS-16	知の身体性	11
OS-17	汎用人工知能とその社会への影響	8
OS-18	共創的価値創出のためのデータプラットフォーム～社会実装に向けて～	8
OS-19	脳科学と AI	10
OS-20	ヒューマンコンピューテーションとクラウドソーシング	11
OS-21	音楽と言語	11
OS-22	仕掛学	12
OS-23	世代をつなぐ知的インタフェース	5
OS-24	グリーン AI ～ AI による環境貢献～	8
OS-25	経営課題に AI を!	12